

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は平成33年(2021年)には、創立100周年を迎える伝統校です。長い歴史において「文武両道」の良き伝統を貫き、社会に有為な人材を数多く輩出してきました。平成23年度は大阪府から「GLHS校(グローバルリーダーズハイスクール)」の指定を受けることができました。平成27年度は文部科学省から「SSH(スーパーサイエンスハイスクール)」の2期目の指定を受けると同時に、「SGH(スーパーグローバルハイスクール)」の指定も受けました。いずれも、「高い志」と夢をもち、科学技術の分野など様々な分野で国際社会において活躍する人材の育成をめざしています。そのために必要な力として、「高い学力と探究心の育成」「チャレンジ精神の涵養」「人権感覚・国際感覚の育成」「英語力」「リーダーとしての資質」等が挙げられます。

本校では、「ハイレベルかつ興味関心を引き出す授業と課題研究等の探究的学習」「生徒の進路第一希望を実現するためのカリキュラムと学習・進路指導」「生徒の自主的かつ協同的活動を促す行事・部活動」等を通し、知・徳・体のバランスの取れた全人教育をめざしています。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く学力の育成

(1) 真の文武両道をめざし、自学自習を促進し、家庭での学習習慣を確立させるために3年間を通じた豊高学習プログラムを企画立案する。

ア 1年生は入学式を4月8日までに、全員対象の学習サポートプログラムを行い、高校での学習及び自学自習を指導する。

イ 1、2年生は自学自習習慣を身につけるために、年間2回は自学自習日を設ける。

ウ 文理学科全員に課している課題研究基礎(1年)、課題研究I(2年)、課題研究II(3年)において、SSH課題は積極性・忍耐力・協調性を測る「心のループリック評価」、SGH課題はグローバル化を測る「豊高型グローバルマインドセット評価」を行う。いずれの場合も課題研究の質の向上及び進路を切り拓いていく力を養うために、ループリック評価を行う。

※「心のループリック評価」については、5年間のSSH課題として実施し、最終の平成31年度には平均3.4以上をめざす。

※「豊高型グローバルマインドセット評価」については、平成28年度は平均3.2以上、平成29年度は3.3以上、平成30年度は3.4以上をめざす。

(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現

ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートしていく。

イ 生徒の正しい職業観育成のために、職業別進路講演会をはじめ、職場訪問・体験等を実施する。

ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学紹介の冊子を作成する。(100%参加目標)

エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。

オ 校内実力や外部模試等のデータを一つにまとめ、新たに進路資料システムとして、eポートフォリオを作成して学習指導・進路指導に活用する。

カ 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会の充実させる。

キ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現割合を増加させる。

※平成28年度は生徒の3年次の進路第一希望を60%以上(毎年5%上げる)、京都・大阪・神戸大学等の難関大学70名以上(毎年5名上げる)にする。

2 国際舞台で活躍する人材育成

(1) 「志」の育成

ア 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、「志」学を実施する。

「志」学では、社会貢献の意識を醸成し、リーダーとしての資質を育成することを目標にして、ボランティア活動等の体験的活動を行い、その成果の実践報告書を作成する。

イ 生徒自治会を中心に、生徒のリーダーを組織し、育成する。リーダー講習会、メンタルトレーニングなどの能力開発等を実施することで、一般生徒からの意見を積極的に情報収集して、学校に論理的に意見が言えるような組織にする。

※「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者(対象2年生)100%実施を維持していく。

(2) 骨太の英語力養成事業の推進

ア 英語によるコミュニケーション力の育成(リスニング・プレゼンテーション講習)

イ TOEFLコース生として高度な4技能(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング)の養成に向け、TOEFL iBT仕様の授業を、SET(スーパーイングリッシュティーチャー)を中心に、文理学科80名に対して行う。

ウ 文理学科だけでなく普通科にも拡大して、大阪大学・関西学院大学・豊中地域在住の留学生等との交流を行う。

エ 英国語学研修(参加者30名以上)のアクティブな活動内をより精査して継続実施する。

オ 1、2年生の希望者20名程度を対象にグローバルスタディープログラムとして、英語即興型ディベート等を取り入れて、英語運用能力を育成する。

カ TOEFLコース生だけでなく、学校全体としてグローバル人材に必要な英語運用能力の育成に取り組む。

※TOEFLコース生については、TOEFL iBTにおいて、60点以上は、1年生は4人以上、2年生は16人以上、3年生は32人以上を目標にする。

TOEFLコース生以外の生徒については、実践的英語力の伸びを測定するのに、英語学力調査を用いる。

(3) SSH事業の推進

ア 第2期のSSH事業の継続を元に作成したプログラムを実施していく。中でも、課題研究の質の向上及びチームでの到達度を高めていく「心のループリック評価」を開発し、その評価法を実践していく。

イ 科学コンクール・科学オリンピックで入賞者を出すために、各種科学コンテスト等に参加し、高い志を持たせる。

ウ SSS(スーパーサイエンスセミナー)として、文系・理系に限らず、科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。

エ 科学(物理、化学、生物、地学)研修を継続実施する。

※SSH事業で毎年評価が求められる。

(4) SGH事業の推進

ア 教育の国際化を視野にSGH校として学校全体で取り組む組織や人材育成プログラムを確立する。

イ 現在グローバル化をめぐる中心的な問題が先鋭なかたちで現れているイスラーム世界(言葉や文化の壁が最も大きくて理解しがたい)の多様性の理解の深化を通して、日本文化とのつながりから新たなグローバルスタンダードを創造するプログラムを研究開発する。以下の4つの観点から課題研究を行う。

①<GLOBAL VISION 目的1>フェアトレード(公平貿易)を学び、生産者の立場に立つビジネスを展開する。

②<GLOBAL VISION 目的2>「地球環境問題(再生可能エネルギーの活用)」を学び、生活者の立場に立つビジネスを展開する。

③<GLOBAL VISION 目的3>「世界のためにできること」を学び、日本の社会に還元する

④<GLOBAL VISION 目的4>日本とイスラームから創造する新たなスタンダードを構築する。

※SGH事業で毎年評価が求められる。

(5) GLHS事業の推進

ア GLHS事業計画にもとづき、学校全体で取り組む組織を確立する。

イ 文理学科としての理系及び文系の課題研究の質を高めるために、3年生が1、2年生を指導する課題プログラムの開発や大学生・大学院生のTA(ティーチングアシスタント)も活用していく。

ウ 1年間の授業成果及発表(豊高プレゼン)を行い、豊高のGLHS校としての取組みを、広く生徒、保護者、教員等に知らせる。

※普通科においても、課題研究を全員の生徒を対象に行えるようなプログラム開発を順次行っていき、平成29年度には完全実施をめざす。

3 教員の授業力等の資質向上に向けた取組み

(1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年2回組織的に実施する。

(2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。(年間2回)

(3) ICT活用として、教職員間で教材の共有を図ることで、アクティブラーニング型授業の普及に努める。

(4) 初任者や経験年数の少ない教員とミドルリーダーのコラボによる教員の研修を組織的に行い、学校をより活性化させる。

(5) 年度の必要性に応じて、教員研修として、年1回以上は人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。

※授業アンケートにおける総合平均は継続して3.2以上をめざす。

※学校教育自己診断及び授業アンケート結果による教員研修を必ず1回は実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「質問に行くといねいに教えてもらえる」の肯定的評価が91%で、生徒が授業や自学自習を行うなかでわからない問題に出会ったとき、教員に質問に行く習慣、その際に教員が丁寧な指導をしていることが伺える。 ・「授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がある」は70%で、さらに授業改善が求められる。他方、教員アンケートでは「学校は思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」が88%(昨年度より17%増)、「教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」が91%(昨年度より12%増)、「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」が83%(昨年度より12%増)と、着実にアクティブラーニング型授業に対する認識が深まり、授業改善の意識が進んできている。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」(生徒79%)、「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(保護者77%)、「学校は自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(保護者77%)と改善の余地があり、取組み内容の質を高めるよう努めていく。 ・「豊中高校に入学してよかったと思っている」(生徒89%)、「子どもは充実した学校生活を送っている」(保護者92%)と学校生活への満足度は非常に高い。 ・「生徒の進路に関して、家庭との連絡・連携がとれている」(保護者58%)の評価が低い。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」(93%)と教職員から高い評価を受け一方、「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取組める環境にある」(79%)、「学校運営に教職員の意見が反映されている」(60%)に対しては、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担の在り方の研究により解決を図る。 ・保護者の「学校のホームページを見ている」が32%であることに対して、今年度から始めた「校長ブログ」の日々更新で改善を図っているところである。 	<p>【第1回(5/27)】平成28年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年で様々な取り組みを行うことにより、学校が活性化していると感じられる。引き続き、生徒たちのために頑張っていただきたい。 <p>【第2回(7/15)】平成28年度使用教科用図書採択について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が中心となって時間をかけて、教科の経験や判断を基に適切な教科書を選定しているので、特に問題はなくこれで進めていただきたい。 <p>【第3回(12/19)】平成28年度学校教育自己診断結果、1年間のまとめ、提言<「学力の育成」に関して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習で何をすべきかなど目標を記入するシートを作成すればより効果的になると思うので検討されたい。 ・勉強だけではなく、学校行事や部活動にもよく取り組んでいる。勉強と両立してくれればと思っている。 ・保護者の進学校への期待は高い。土曜講習などを行っていることをもっと発信すべきと考える。 ・保護者との連絡を密にするなどの改善をお願いしたい。 ・進路については、保護者の要求は高いがよろしくをお願いしたい。 <p><人財育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業やSGH事業を活用したグローバル人材の育成は、先生方にとっては大変な業務であろうと考えられるが、成果も上がっており、社会が必要とする人材育成のために引き続き、尽力されたい。 <p><「教職員の資質向上」に関して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、知識だけではなく新しい発想を生み出すことが求められている。そのためにもアクティブ・ラーニングは重要であるので、さらに進めていただきたい。 ・学校教育自己診断結果に先生方の努力が集約されている。全般的に生徒の評価は高いが、成績不振者へのケアや、自由記述欄には少数であるが先生の授業の仕方についての意見もあるので改善を検討されたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を切り拓く学力の育成	<p>(1) 真の文武両道をめざし、自学自習を促進し、家庭での学習習慣を確立させるために3年間を通じた豊高学習プログラムを企画立案する。</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年生は入学式を4月8日までに全員対象の学習サポートプログラムを行い、高校での学習及び自学自習を指導する。</p> <p>イ・1、2年生は自学自習習慣を身につけるために、1学期終了、2学期終了後の年間2回は自学自習日を設ける。 ・自習室を放課後午後6時30分までは毎日開放し、部活動終了後、週2回は午後7時30分まで開放して生徒の自学自習力を高める。</p> <p>ウ 文理学科の生徒の課題研究を行う上で、京都大学・大阪大学等の学生や院生をTA(ティーチングアシスタント)として活用することで、内容の充実を図る。その測定法として、SSH課題については、積極性・忍耐力・協調性を測る*「心のルーブリック評価」を行い、SGH課題については、*「豊高型グローバルマインドセット評価」を行い、課題研究の質の向上及び進路を切り拓いていく力を養う。 *「心のルーブリック評価」・・・別紙参照 *「豊高型グローバルマインドセット評価」・・・別紙参照</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートしていく。</p> <p>イ 生徒の正しい職業観育成のために、職業別進路講演会をはじめ、職場訪問・体験等を実施する。</p> <p>ウ 1、2年全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、大学紹介の冊子を作成する。(100%参加目標)</p> <p>エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。(参加者を100名以上を目標とする)</p> <p>オ 校内実力テストや外部模試等のデータを一つにまとめ、生徒個人別の進路資料作成を検討する。</p> <p>カ 平成28年度入学生用の新しいカリキュラムを円滑に実施する。</p> <p>キ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 計画・立案された学習サポートプログラムにおける生徒の満足度を90%以上にする。(平成27年度は89%)</p> <p>イ・参加者1年生は全員対象、2年生は250名程度を目標として参加満足度90%以上にする。(平成27年度は91%) ・生徒の自学自習力を高めるために、自習室を開放する。その満足度を80%以上にする。(平成27年度は82%)</p> <p>ウ 「心のルーブリック評価」として平均3.0以上にする。(平成27年度は2.8)</p> <p>(2)</p> <p>ア 京大・阪大・神大の希望者数を100名以上にする。(平成27年度は115名)</p> <p>イ 同窓生の協力を12名以上にして希望職業ごとに2回講演とする。(平成27年度は13名) 企業見学は30名以上(平成27年度は30名)</p> <p>ウ 昨年に引き続き全員参加(平成27年度100%)</p> <p>エ 施設見学等の参加者100名以上(平成27年度は88名)にして、進路意識を向上及び課題研究の内容充実度を80%以上にする。(平成27年度は85%)</p> <p>オ 学校教育自己診断(生徒)において「将来の進路や生き方について考える機会がある」については85%(←82%)、「希望する進路が実現するための講習や補習が充実している」については、70%(←68%)を肯定的な回答になるようにする。</p> <p>カ 新1年生における学校教育自己診断(生徒)において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」については80%(←74%)を肯定的な回答になるようにする。</p> <p>キ 生徒の3年次の進路第一希望を55%以上、京都・大阪・神戸大学等の難関大学65名以上にする。(平成27年度は51%、49名(現役))</p>	<p>ア アンケートによる満足度は85%で生徒の評価も高く、ほぼ満足のいく学習サポートプログラムが実施することができた。(○)</p> <p>イ・1年生については全員対象の400名が参加した。2年生については300名程度になった。また、生徒の満足度は88%となりほぼ目標通りとなった。(○) ・自習室については、3学期から教員の一斉退庁日の趣旨を踏まえ、週2回の午後6時55分までの開放に変更したが、20名以上の参加があった。満足度は80%。ノークラブデーにおける自習室の活用を促し満足度の向上を図る。(○)</p> <p>ウ 「心のルーブリック評価」の平均は3.7であった。なお、SGHで用いている「豊高型グローバルマインドセット評価」の平均は3.4であった。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 3年生希望者数は133名(◎)</p> <p>イ 同窓生14名による講演会を1年全員に2回(同日)実施。また、企業見学として、関西電力等にのべ115名参加した。(◎)</p> <p>ウ 参加率100%でほぼ計画通り。(◎)</p> <p>エ 参加人数は146名。進路意識の向上100%、課題研究の充実80%。早期から大学見学を行い進学先の選択にミスマッチがないようにしていきたい。(◎)</p> <p>オ 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的な回答として、「進路や生き方について考える機会がある」については80%(←85%)、「講習や補習が充実している」については、68%(←68%)であった。(△)</p> <p>カ 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」については70%(←80%)。(△)</p> <p>キ 生徒の3年次の進路第一希望実現は50%。京都・大阪・神戸大学等の難関大学48名。(△)</p>

府立豊中高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 国際舞台で活躍する人材育成</p>	<p>(1) 志の育成 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、「志」学を本格実施する。 「志」学では、社会貢献の意識を醸成し、リーダーとしての資質を育成することを目標にして、地域のボランティア活動等の体験的活動を行う。</p> <p>(2) 骨太の英語力養成事業の推進</p> <p>(3) SSH事業の推進</p>	<p>(1) ア 地元豊中市と連携し、公民館・分館、小中学校、支援学校、高齢者施設等の取組みや活動に本校生（主として2年生）が参加し、体験的活動を行う。その中で、自分の有用感や社会貢献の志を育てる。クラブ単位での参加・活動も進めていく。</p> <p>イ 生徒自治会のリーダーシップ養成に向けて、体育大会・校内大会・文化祭等の学校行事の企画・立案及び一般生との意見収集する機会を増やして、組織的に行動する。</p> <p>(2) ア 英語によるコミュニケーション力の育成（リスニング・プレゼンテーション講習）</p> <p>イ TOEFL コース生として高度な4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、TOEFL iBT仕様の授業を、SET（スーパーイングリッシュティーチャー）を中心に、1、2年の文理学科それぞれ80名に対して行う。</p> <p>ウ 文理学科だけでなく普通科にも拡大して、大阪大学・関西学院大学・豊中地域在住の留学生等（90名程度の確保）との交流を行う。</p> <p>エ 英国語学研修（参加者30名以上）のアクティブな活動内容をより精査して継続実施する。</p> <p>オ 1、2年生の希望者20名程度を対象にグローバルスタディープログラムとして、英語即興型ディベート等を取り入れて、英語運用能力を育成する。</p> <p>カ TOEFL コース生だけでなく、学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力の育成に取り組む。</p> <p>(3) ア 第2期のSSH事業の継続を元に作成したプログラムを実施していく。中でも、課題研究の質の向上及びチームでの到達度を高めていく「心のリーブリック評価」を実践していく中で、データを蓄積していく。</p> <p>イ 科学コンクール・科学オリンピックで入賞者を出すために、各種科学コンテスト等に参加し、高い志を持たせる。</p> <p>ウ SSS（スーパーサイエンスセミナー）として、文系・理系に限らず、科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。</p> <p>エ 科学(物理、化学、生物、地学)研修を継続実施する。</p>	<p>(1) ア・その成果のプレゼン発表及びレポートを提出する。参加者は2年生全員とする。 ・アンケート（生徒）における活動に肯定的な回答が85%以上。（平成27年度は85%） ・「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）を引き続き100%にする。</p> <p>イ・体育大会、校内大会、文化祭の関わり度合いを ・体育大会→55%（←52%） ・校内大会→91%（←91%） ・文化祭→50%（←44%） 満足度はいずれの場合も80%以上にする。（平成27年度はいずれも80%以上）</p> <p>(2) ア リスニング講習参加者は250名以上にする。（平成27年度260名）</p> <p>イ TOEFLiBT 第1学年で4人以上が60点以上にする。（平成27年度2名）</p> <p>ウ 留学生等との交流を普通科にも拡大して、1年全員400名に対して実施する。（平成27年度360名）</p> <p>エ 英国語学研修の満足度を80%以上にする。（平成27年度は85%）</p> <p>オ 英語運用能力テストの伸びを1年間で30%以上にする。（新規）</p> <p>カ 英語運用能力テストの伸びを1年間で15%以上にする。（新規）</p> <p>(3) ア SSH受講生に対して、「心のリーブリック評価」を実施し、平均3.0以上にする。（平成27年度は2.8）</p> <p>イ 2年に一度行われるシンガポール高校生科学チャレンジコンテストに応募して、優秀賞以上の賞を獲得する。</p> <p>ウ SSHアンケート:科学に興味関心をもった生徒を90%以上にする。（平成27年度は92%）</p> <p>エ 延べで研修参加生徒を100名以上にする。（平成27年度は110名）</p>	<p>(1) ア・参加率100%を維持。 ・生徒の満足度も肯定的な答えは85%。 ・地域のコミュニケーション誌に取り上げられるなどしており本校の新たな伝統として継承していきたい。（◎）</p> <p>イ 関わり 満足度 ・体育大会→ 58% 92% ・校内大会→ 91% 92% ・文化祭→ 52% 92% （○）</p> <p>(2) ア 講習参加者101名。（△）</p> <p>イ TOEFLiBTは、1年生で60点以上は2名。（△）</p> <p>ウ 学年との連携を図り、予定通り実施。留学生は57名確保。来年度からさらに組織的に行えるよう業務分担の改善を予定。普通科への拡大は継続して行いたい。（◎）</p> <p>エ 参加者37名の満足度は95%。継続して実施したい。（◎）</p> <p>オ 運用能力テストの伸び22%。（△）</p> <p>カ 運用能力テスト（GTEC）の伸びが四技能で15%の伸び。（○）</p> <p>(3) ア SSH「心のリーブリック評価」平均3.7（◎）</p> <p>イ 京都大学「サイエンスフェスティバル」に大阪府代表（参加12県）として出場。日本原生物学会において、ベストプレゼンテーション賞を受賞。（シンガポールのコンテストは本年実施されず。）（◎）</p> <p>ウ SSHアンケート結果で科学に関心を持った生徒は97.7%。SSH事業は本校に定着をしておりさらなる組織的運営を図りたい。（◎）</p> <p>エ 延べ研修参加生徒105名。（◎）</p>
--	--	--	---	---

府立豊中高等学校

2 国際舞台で活躍する人材育成	<p>(4) SGH事業の推進</p> <p>(5) GLHS事業の推進</p>	<p>(4)</p> <p>ア 教育の国際化を視野にSGH校として学校全体で取り組む組織を確立するとともに、SGH人材育成プログラムを作成する。</p> <p>イ <GLOBAL VISION 目的1～目的4>を通して、イスラーム文化と日本文化とのつながりから新たなグローバルスタンダードを構築する。</p> <p>(5)</p> <p>ア 希望生徒約50名を集めて、校内留学グローバルプログラムとして全日5日間実施する。</p> <p>イ 文理学科としての理系及び文系の課題研究の質を高める。</p> <p>ウ 1年間の授業成果及び発表(豊高プレゼン)を行い、豊高のGLHS校としての取り組みを、広く生徒、保護者、教員等に知らせる。</p>	<p>(4)</p> <p>ア SGH研究開発委員会を組織して、定例的に開催する。</p> <p>イ SGH課題研究に興味関心をもった生徒を80%にする。(平成27年度は75%)</p> <p>(5)</p> <p>ア 参加生徒の満足度を85%以上にする。(平成27年度は85%)</p> <p>イ 3年生が1、2年生を指導する課題プログラムの開発や大学生・大学院生のTA(ティーチングアシスタント)を10名以上参加させる。(平成27年度は10名参加)</p> <p>ウ 豊高プレゼンでのアンケート結果における肯定的な答えを85%以上にする。(平成27年度は87%)</p>	<p>(4)</p> <p>ア 年間17回の委員会を開催し、学年、教科とも連携できる組織体制が確立できた。(◎)</p> <p>イ 興味・関心を持つ生徒81%。さらに指導法等を工夫し、生徒のモチベーション向上に努めたい。(◎)</p> <p>(5)</p> <p>ア 満足度100%。(◎)</p> <p>イ TAの参加人数81名(SSH30名、SGH(51名))。本校で課題研究を体験した卒業生である大学生などがTAを担当し効果的に活動しているため。継続を図る。(◎)</p> <p>ウ 肯定的回答89.6%。生徒が発表に専念できるよう、運営準備に対する省力化・効率化の観点から一部の内容の校内実施を検討していく。(◎)</p>
3 教員の授業力等の資質向上に向けた取り組み	<p>(1) 全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年間2回組織的に実施する。</p> <p>(2) 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートの結果を教科会議で分析し、改善策を検討する。(年間2回)</p> <p>(3) ICT活用としてアクティブラーニング型授業の普及に努める。</p> <p>(4) 初任者や経験年数の少ない教員とミドルリーダーのコラボによる教員の研修を組織的に行い、学校をより活性化させる。</p> <p>(5) 年度の必要性に応じて、教員研修として、年1回以上は人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。</p>	<p>(1) 昨年度同様、全教科・科目について、生徒による授業アンケートを年間2回実施する。</p> <p>(2) 教科ごとに年1回の授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、教科・科目としての授業改善を図る。更に、全体研修会を1回は必ず行う。</p> <p>(3) パッケージ研修(Ⅱ)を活用して、生徒の興味・関心が高まるようなアクティブラーニング型の授業を増やしていく。</p> <p>(4) 初任者や経験の少ない教員には、社会人としての振る舞いや教科指導・生徒指導等に自信と誇りを持って取り組ませ、生徒を教育することの達成感を味あわせる。また、ミドルリーダーとのコラボにより学校の抱える問題やこれからの教育にどう取り組んでいくか等についてもディスカッションする。</p> <p>(5) 今年度は、教員研修として、人権研修及び授業改善研修をテーマに実施する。</p>	<p>(1) 年間2回実施することにより、1回目で低い値であった教員の授業力をより高めていくことで、評価の平均値を3.2以上にする。(平成27年度の平均値は3.2)</p> <p>(2) 授業アンケート結果の値が1回目より2回目の方がよりよくなっているようにする。また、学校教育自己診断(生徒)において、「教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある」の割合を85%以上にする。(昨年度は83%)</p> <p>(3) 教員の教材利用状況を調査して活用度を50%以上にする。また、学校教育自己診断(教員)結果におけるICT関連項目での満足度50%以上にする。(平成27年度46%)</p> <p>(4) 管理職、初任者、ミドルリーダー等を交えて、研修を週1回行う。(平成27年度は週1回行った。)</p> <p>(5) 教職員の満足度を83%以上にする。(平成27年度は80%)</p>	<p>(1) 評価の平均値3.2。府教育庁が定める授業改善シートなどを活用し、従業力改善の指導を行った。(○)</p> <p>(2) 結果が上昇した教員の割合38%。「教材・指導方法に工夫が感じられる授業」の割合78%。(○)</p> <p>(3) 教員の利用状況67.5%。ICT満足度79.0%。「豊高型アクティブラーニング」の研修等に全教諭が参加し教員間での合意形成を図った。(◎)</p> <p>(4) 年間25回実施。受講教員からは、当該研修について教員としての心構え、授業や担任業務への理解が深まったなどの評価を得ている。(◎)</p> <p>(5) 「発達障がいについて」、「アクティブラーニング型の研究授業」等の研修を年間4回実施。教職員の満足度83%(◎)</p>

府立豊中高等学校

心のルーブリック(例)						
		1	2	3	4	5
		大きな努力を要する	努力を要する	概ね達成	十分達成	期待以上
積極性	評価基準	・極めて消極的で、探求心や知的好奇心が育っていない。	・与えられたことには取り組むが、自ら探究する力は不十分である。	・課題に対して進んで取り組む。	・自ら課題を発見し解決しようとする。	・自ら課題を発見し、その解決に向け全力で取り組む。
	行動指標	・その時間内のみ活動し、個人的な調べ学習はない。 ・校内の発表会にも非常に消極的である。 ・意見を求められても自分の意見を言うことができない。 ・教員や指導員を避けようとする。 ・同じ班員ともコミュニケーションを取ろうとしない。	・基本的に活動はその時間内のみだが、与えられた課題は一応調べる。 ・校内の発表会で、発言することができる。 ・意見を求められれば自分の意見を言うことができる。 ・教員に自分の意見は言えないが、指導を仰ぐことはできる。 ・同じ班員とはコミュニケーションを取れる。	・与えられた課題に対して関心をもち、活動時間以外にも手近な資料やインターネットでの調べ学習は行う。 ・校内の発表会で積極的に発表できる。 ・意見を求められなくても、自分の意見を言うことができる。 ・顔見知りの教員であれば、意見を述べ、指導を仰ぐことができる。 ・校内規模であれば、コミュニケーションが取れる。	・自らの関心に基づいて課題を設定し、活動時間以外も実験に取り組む。 ・学校や近隣の図書館の本で調べ学習を行う。 ・外部の発表会で積極的に発表できる。 ・グループ内では率先して意見を述べるができる。 ・顔見知りの教員であれば意見を述べ、指導を仰ぐことができる。 ・外部のネットワークに参加することができる。	・自らの関心に基づいて課題を設定し、活動時間以外も試行錯誤を繰り返しながら実験に取り組む。 ・専門書を用いた調べ学習や専門家にメール等で質問することができる。 ・教員の勧めがなくても、外部での発表会に積極的に参加し発表できる。 ・他校生と積極的に意見交換や議論ができ、新たなネットワークを構築できる。 ・外部指導員や専門家にも積極的に意見を述べ、指導を仰ぐことができる。
忍耐力	評価基準	・失敗したり、不利な状況に陥ったりすると取り組む意欲を失う。	・失敗したり、不利な状況が続いたりすると取り組む意欲を失う。	・失敗や不利な状況が続いても意欲を失わず、継続して取り組むことができる。	・失敗や不利な状況が続いても、状況が好転するまで継続し続けることができる。	・失敗や不利な状況に耐えるだけでなく、前向きに物事を捉えその解決に向けた努力を続けられる。
	行動指標	・数回実験が失敗すると意欲を失い、その実験から逃れる行動を取る。 ・実験ノートをまともにとることができない。	・数回実験が失敗しても、教員の指導があれば、ある程度実験を続ける。 ・実験ノートに日付や温度等、その日の実験結果など最低限の事項は記入するが、考察が薄い。	・実験の失敗が続いても、教員の指導無しで引き続き実験に取り組むが、検証、考察等がおざなりになる。 ・実験ノートには、概ね型どおりのことを記入し、その実験に基づく考察もある程度は書けるが、主観に基づく記述が増える。	・実験の失敗が続いても、教員の指導無しで引き続き実験を行うことができ、試行錯誤による問題解決ができる。 ・実験ノートにその都度気づいたことなどを記入する等、再現性を高める努力が見られる。考察等も妥当で、同じ実験結果でも、毎回複数の考察が書ける。	・実験の失敗が続いても、モチベーションを失わず、原因を探り、新たな考えのもと進んで実験に臨むことができる。 ・実験ノートに気づいたことを細かく記入し、極めて再現性の高いノートを作り続けられる。毎回の考察も鋭く、常に新たな文献で調べた内容等が書かれている。
協調性	評価基準	・規律やルールを無視し、自らの都合や感情を優先した行動をとる。	・規律やルールを守る意識はあるが、他者への配慮が欠ける場面が見られる。	・規律やルールを守り、集団として行動しようと努める。	・規律やルールを守るのはもちろん、率先してコミュニケーションを取ろうとするなど、集団を高める意欲が見られる。	・他の模範となる行動が随所に見られ、集団のモチベーションを極めて高い状態に維持することができる。
	行動指標	・他の班員に対して無関心あるいは、非常に消極的である。 ・他者を責めたり、威圧的な態度を取る。 ・ルールや約束を守らず、班員に迷惑を掛ける。	・班への所属意識はあるものの、積極的に関わろうとはしない。 ・指示されたことや決められたルールは守ろうとするが、基本的に楽しようとする。 ・意見は求められれば言う程度で、前向きで無いものも含まれる。	・班の中で与えられた役割をしっかりと担い自己都合を優先しない。 ・積極的に発言するが、他者の発言を促すことまではできない。	・自ら班での役割を認識し、時にはリーダーとなってグループ内のコミュニケーションを円滑に進められる。 ・積極的に発言し、他者の発言を促すことができる。また、他者の意見に同調し、自分の意見を変えることができる。	・極めて高いリーダーシップを発揮し、所属するグループを活気づけることができる。 ・他の集団とも連携し、学校や組織の枠を超えた活動ができる。

豊高型グローバルマインドセット評価のルーブリック

	世界への関心・知識	多様性の理解	コミュニケーション	グローバルシチズンシップ	言語活動	
観点	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する強い関心と共感を持ち、探究心をもって理解しようとする。	新しく、価値のあるアイデアを、他者と一緒に創造的に考える。	異質な人びとからなる多様な社会グループにおいてよい人間関係を形成するとともに、対立を処理し、解決できる。	我が国と世界の国々の文化・社会を積極的に理解しようとし、国際的視野と高い教養をもって人類の普遍的価値を尊重するとともに冒険に対する探究心をもつ。	世界の人びとと協働するとともに世界で活躍するために、世界共通言語である英語4技能を高めたいという強い意志と実行力をもつ。	
5	期待以上	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する強い関心と共感を持ち、探究心をもって理解しようとする。世界に関する教養と洞察を高めている。	他者に対して効果的に、新しいアイデアを提案・実行し、新しい見方・考え方や多様な見方・考え方に対して偏見をもたない。	異なる民族・宗教・文化・社会の人びとと相互に尊重し合えるとともに、対立が生じた場合、異なる立場があることを理解し、現状の課題について、その原因を分析することで、問題の再構築をする。	自国への帰属意識及び世界の一員としての意識を高くもち、外国に対する探究心や冒険心を育んでいる。	外国からの留学生等に、積極的にプレゼンテーションをしたりディスカッションを行い、そのパフォーマンスも高く、英語運用能力に強い自信をもつ。
3	概ね達成	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する関心と共感を持ち、探究心をもって理解しようとするが、世界に関する教養と洞察は高まっていない。	新しい見方・考え方や多様な見方・考え方に対して偏見をもたないが、他者に対して十分効果的に、新しいアイデアを提案・実行することができない。	異なる民族・宗教・文化・社会の人びとと相互に尊重し合えるが、対立を調整し処理・解決する意欲や実行力が十分ではない。	自国への帰属意識及び世界の一員としての意識をもっているが、外国に対する探究心や冒険心に欠ける。	外国からの留学生等に、積極的にプレゼンテーションはできるが、ディスカッションができるまでのパフォーマンスに欠ける。英語運用能力への自信も弱い。
1	大きな努力を要す	世界各地の異なる文化、歴史、地理、社会に対する関心と共感に欠ける。	新しい見方・考え方や多様な見方・考え方に対して偏見をもってしまう。	異なる民族・宗教・文化・社会の人びとと相互に尊重し合う気持ちに欠ける。	自国への帰属意識及び世界の一員としての意識が希薄である。	外国からの留学生等に、積極的にプレゼンテーションができない。英語運用能力への自信もない。

※ 5には及ばないが3を上回る評価には、4を与える。

※ 3には及ばないが1を上回る評価には、2を与える。